ベランダでも育てられる

みんなのコンテナ菜園

写真・文：園芸研究家●淡野一郎

かきチシャ（サンチュ）

暑さや寒さに強く栽培しやすい 葉をかき採りながら長く収穫

かきチシャの韓国名は「サンチュ」といい、焼き肉を巻く葉っぱといえば思い出してもらえることでしょう。葉は巻かず結球しないリーフレタスの仲間で、多くは戦後導入されたのに対し、かきチシャは平安時代に導入されました。そのため日本の環境にもなじみ、栽培しやすいことが特長です。名前の由来は、葉を「掻（か）き」採り収穫する「チシャ（レタスの和名）」からです。

本来、レタスは涼しい気候を好み、25度以上の高温で生育が悪くなり、多湿で病気を多発します。一方で、かきチシャは、暑さや寒さ、病気にも強く、種まきは年中できますが、好適なのは2月中旬から5月中旬の春と8月中旬から9月中旬の秋です。特に秋まきは、翌春の高温・長日で花芽ができ、4、5月にとう立ちするまでかき採り収穫で長く楽しめます。

写真 © ICHRO AWANO

シャキシャキとした歯応えが楽しめる青葉が特徴の「青かきチシャ」

【基本情報】

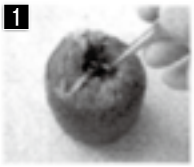
●分類：キク科アキノノゲシ属
●原産地：中近東内陸から地中海沿岸
●発芽適温（地温）：15～20度　●生育適温（気温）：18～22度
●日当たり：日なた/半日陰（夏）　●好適pH：6.0～7.0

【病害虫情報】

アブラムシ類：主に春～秋に葉の裏に発生。初期は捕殺するか、葉ごと取り除く。べたがけや早めの薬剤散布で拡大を防ぐ。
チップバーン：カルシウム欠乏で葉先などが焼けたようになる生理障害。卵の殻を酢に溶かし、100倍に希釈して散布する。

かきチシャの栽培方法

1 種まき



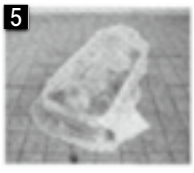
種まきは、ピートモスなどの土でできた育苗用圧縮ポット「ジフィーセブン」（直径42mm）を使えば、苗をそのまま植え付けられて便利。ぬるま湯に浸けて膨らませておいたポットの中央にピンセットなどで深さ5mmほどのまき穴を開け、種を3、4粒ずつまいたら（写真1）、バーミキュライトをかける（写真2）。ハンドスプレーで優しく水をかけておく。種まき後は、不織布を1枚かけておく。

ポイント　芽を出すのに光が必要なので、バーミキュライトは厚くかけ過ぎないように注意する。

2 間引き

適温ならば4、5日で出芽してくる。本葉が1～2枚出たら、はさみやピンセットを使って1株に間引く（写真3）。

3 植え付け



本葉が3～4枚になったら植え遅れることなく植え付ける。植え付け前の苗へはしっかり水やりしておく。元肥として肥料成分が長く効くIB化成を約56g混ぜた土をプランター（長さ約60cm・14L）へ入れる。15cm間隔で4株を植え付けたら（写真4）、たっぷり水をやる。植え付け後1週間程度は、土を乾かさないよう水やりして、根付きを促す。

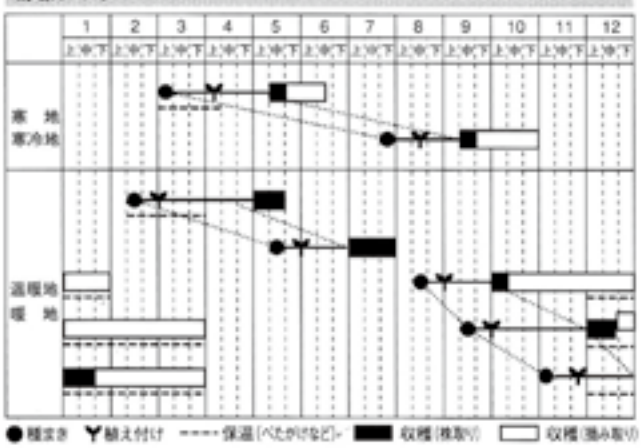
ポイント　12～3月までは、防寒、防霜、生育促進などの目的で不織布を1枚かけておく（写真5：べたがけ）。夏は日陰か、遮光ネットの下に置く。

4 収穫

春・秋まきで種まき後60日ぐらいから、夏まきは45日ぐらいから収穫できる。春まきは株ごと収穫。夏・秋まきは株取り収穫の後に摘み取り収穫もできる。葉が手のひらサイズの約20cmになったら下から2、3枚ずつ順次収穫する（写真6）。

ポイント　摘み採りながら長く収穫する場合は、植え付け後30日から、30日置きにIB化成を1株当たり約8gを施す。

栽培カレンダー



※温暖地を基準に記事を作成しています。

果樹

11月・12月の柑橘園管理

果　樹
原口　悠貴
下島営農指導センター
080-2725-7775

1. 病害虫防除

品　種	対象病害虫	防除時期	農薬名	希釈倍数
温　州	貯蔵病害	収穫前	ベルクートフロアブル	2,000 倍
			トップジン M 水和剤	2,000 倍
			又は、ベンレート水和剤	4,000 倍
	越冬害虫	12/ 下～ 1 月 / 中	ハーベストオイル	60 倍
中　晩　柑	貯蔵病害 (1 回目)	11 月下旬	ベルクートフロアブル	2,000 倍
			トップジン M 水和剤	2,000 倍
			又は、ベンレート水和剤	4,000 倍
	貯蔵病害 (2 回目)	12 月中旬	ベルクートフロアブル	2,000 倍
			トップジン M 水和剤	2,000 倍
			又は、ベンレート水和剤	4,000 倍

2．施肥、葉面散布

○通常タイプ

施肥時期	品種名	10a 当たり施肥量	肥料名
11 月上旬	ポンカン・早生・中熟・普通温州	5袋	ニュー熊本果樹3号
	清見・河内晩柑 甘夏・パール柑	3袋	
	デコポン	4袋	

○収穫が終わった品種は樹勢回復対策を行いましょう。

資材名	使用倍数	備考
尿素 又は アミノジューシーN 14 又は 神協スピリッツ	500 倍	収穫後３回以上 集中散布

3．デコポンとポンカンの水腐れ軽減対策

水腐れ軽減のためにジベレリンを散布し、青果率向上を行いましょう。また、散布適期を逃さないよう、貯蔵病害の薬剤散布前に単剤で行いましょう。

○ジベレリン液剤 40 m l の場合

対象品種	薬剤名	使用濃度	1 ビン当たりの水量	実施時期	収穫前日数
デコポン	ジベレリン液剤	1 ppm	200 ℓ	着色終期	7日前まで
ポンカン	ジベレリン液剤	0.5ppm	400 ℓ	着色始期～４分着色期	21 日前まで

畜産

子牛の寒冷対策について

畜　産
園田　遼海
下島営農指導センター
080-1795-9380

11月に入り、徐々に冬期の対策が必要になってきます。冬場は肺炎や下痢など、子牛の病気等が発生しやすく、その対応が生産性に直結するため、飼養管理を見直してみましょう。

冬場の疾病対策

①出生時にしっかり初乳を飲ませる（1～2時間以内、遅くても12時間以内が理想）
②母牛へのワクチン接種によって子牛への移行抗体を強める
③分娩前の増飼いをし、子牛の状態を向上させる。
④密飼いを避け、ストレスを低減させる。
⑤空気の通り道を作り、換気を良くしておく。
⑥敷料をこまめに交換し、乾燥させておく。
⑦断熱材、マット、ヒーター、ベストなど使用し、気温・体温を調整する。
⑧餌場や哺乳ビン、哺乳ロボットなど掃除をこまめに行う。
⑨5種混合ワクチンの接種

肺炎、下痢などの疾病は子牛の発育を阻害するだけでなく、同じ牛舎内にいる他の牛にも感染し悪影響が広がります。上記の対策を実施して経済的損失の影響を最小限にとどめ、安定した畜産経営を目指しましょう。